

Nバス及びおでかけなんじいの利用状況について

令和3年6月

南 城 市

1 概況

- 再編前のおでかけなんじいは概ね 1 日当たり 80 人前後の方が利用していました。
- 再編直後の N バス利用者は 1 日当たり約 300~380 人、「おでかけなんじい」は約 60 人とあわせて約 360~450 人と再編前を上回る方が利用していました。
- 新型コロナの影響により、2 月以降は徐々に利用者数が減少、4 月、5 月の N バス及びおでかけなんじいの利用者数は約 160~180 人に減少しています。
- 令和 2 年 8 月、9 月は県の緊急事態宣言を受け、利用者数が 190~260 人/月と減少しましたが、令和 3 年 1~2 月の県の緊急事態宣言、令和 3 年 4 月以降は、N バスの利用者は 270 人、おでかけなんじいの利用者は約 50 人と、利用者が回復しきれていない状態が続いています。

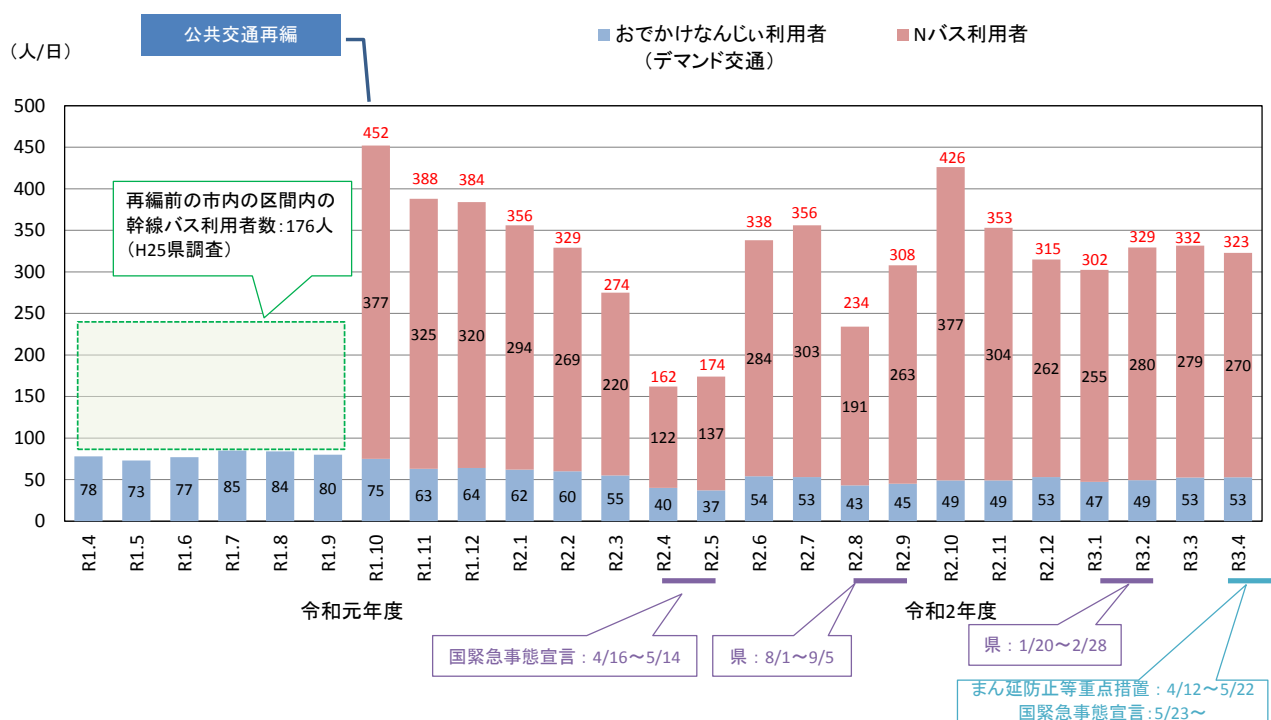


図-1.N バス及びおでかけなんじいの利用状況の推移

2 Nバスの利用状況

2.1 Nバスの運行状況

●Nバスは、平日 15 系統、67 便、休日は 8 系統、54 便が運行されています。

表 1.Nバスの運行便数

系統名	平日	休日
A1：知念・佐敷一周線（右回り）	10 便	10 便
A2：知念・佐敷一周線（左回り）	11 便	11 便
A3：知念・佐敷一周線（右回り）つきしろ経由	1 便	—
B1：ニライカナイ橋・つきしろ線（右回り）	7 便	7 便
B2：ニライカナイ橋・つきしろ線（左回り）	6 便	6 便
C1：玉城・大里一周線（右回り）	10 便	10 便
C2：玉城・大里一周線（左回り）	8 便	8 便
D1：玉城東回り線	3 便	—
D2：玉城東回り線（向陽高校経由）	5 便	—
E：知念南回り線	1 便	1 便
F1：玉城西回り線	1 便	1 便
F2：玉城西回り線（玉城幼稚園経由）	1 便	—
F3：玉城一周線（玉泉洞経由）	1 便	—
G：向陽高校線（大里経由）	1 便	—
H：知念高校線（大里経由）	1 便	—
計	67 便	54 便

2.2 利用者数の推移

- Nバスは1日当たり300~380人前後の方が利用していましたが、新型コロナの影響により2月以降は利用者数が減少し、令和2年4月には122人/日にまで減少しました。
- その後は利用者も回復傾向にあります。再編直後の約75%程度の利用者数で推移しています。

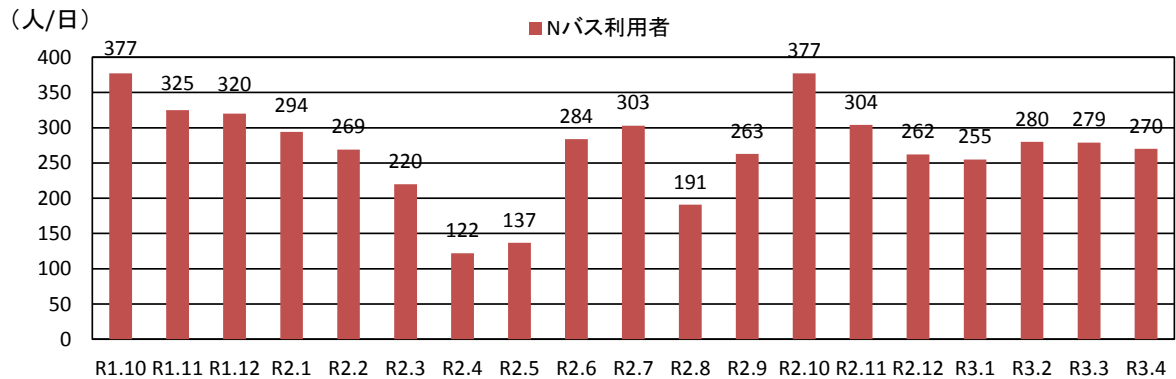


図-2.Nバスの利用者数の推移

2.3 券種別利用者数の推移

- 券種別の利用者数は、回数券利用が最も多く、小学生と大人の回数券利用が多くなっています。
- 大人の回数券利用は増加しています。
- 新型コロナの影響で利用者が減少しており、特に、児童・生徒の回数券利用が大幅に減少しています。
- 一日乗車券の利用者数は徐々に増加してきていますが、月による変動が大きくなっています。

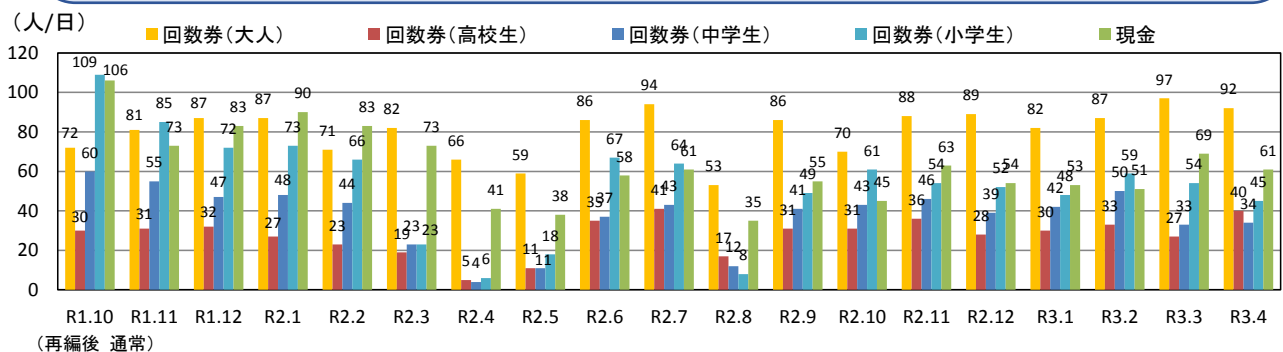


図-3.Nバスの券種別利用者数の推移

表 2.Nバスの1日乗車券の販売状況

	R2.6	R2.7	R2.8	R2.9	R2.10	R2.11	R2.12	R3.1	R3.2	R3.3	R3.4	合計
一般	1	7	3	12	32	10	26	97	125	31	5	349
中高校生	1	0	0	0	1	0	0	1	4	1	2	10
小学生	1	2	1	3	1	0	1	10	32	0	2	53

2.4 曜日別利用者数の推移

- 曜日別の利用者数は、新型コロナウイルスの流行前の平日は 400 人前後、土曜日は 170～200 人、日祝日は 120～140 人が利用していました。
- 令和 2 年 4 月、5 月の緊急事態宣言中は平日で 150 人前後、土曜日・日祝日で 100 人前後まで落ち込んでいます。
- 小中高校生の回数券利用が多いこともあり、土曜日と日祝日の利用者数は平日の半分以下と少なくなっています。また、新型コロナウイルスの影響により、令和 2 年 6 月以降は平日の利用者が減少したままで推移しています。

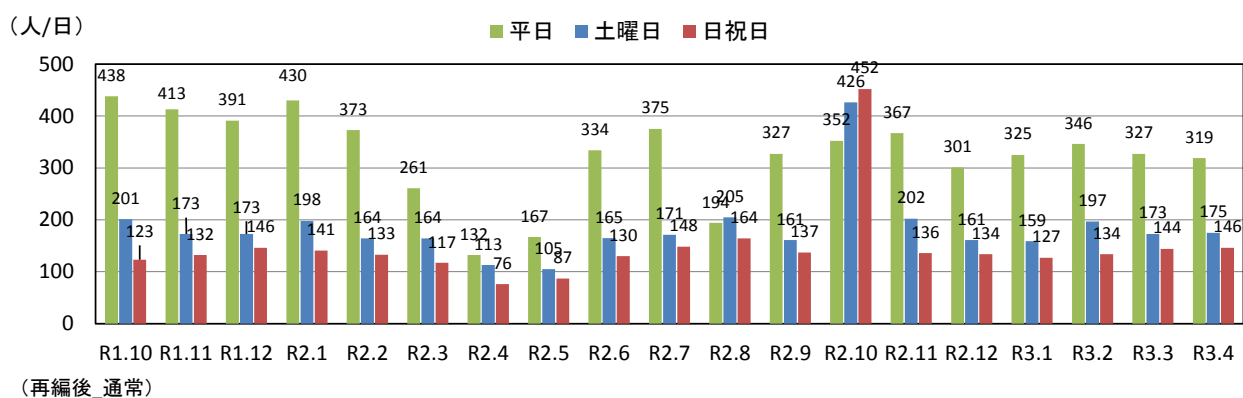


図-4.曜日別利用者数の推移

3 おでかけなんじいの運行・利用状況

3.1 運行形態

- 令和元年 10 月の再編以降、おでかけなんじいの運行エリアは南城市内のみとなり、また、運賃は 75 歳未満が 500 円、75 歳以上が 200 円になっており、再編後は回数券が廃止されています。

表 3 現在の「おでかけなんじい」の運行形態

項目	内容	備考
名称	おでかけなんじい	
デマンドバスの運行範囲	久高島を除く南城市全域	再編前は向陽高校まで運行
利用対象	南城市を訪れる観光客及び南城市民 (年齢制限なし)	
利用料金	75 歳未満は一人一律、1 回 500 円 75 歳以上は一人一律、1 回 200 円 (未就学児は無料)	再編前は一人 1 回 300 円(未就学児無料)、回数券あり
運行形態	ドア to ドア方式の区域運行 (フルデマンド)	
運行曜日	平日・休日(土日祝)の毎日 ※12/31～1/3 は除く	
運行時間帯・運行便数	●8～20 時(8 時台～19 時台の 1 時間ごとに運行) ●平日 9 時台～18 時台は 3 台/時運行 ●その他の時間帯は 2 台/時運行	再編前は、土曜日 16 時台は 3 台/時で運行
運行車両台数	最大 3 台(5 人乗り車両)	令和元年 11 月以前は 10 人乗り
利用方法	観光客は登録不要。南城市民は登録制で、利用したい便の 30 分前までに電話にて予約。ただし、8 時台は前日までの予約が必要。	

表 4 「おでかけなんじい」の運行台数

曜日	時間帯											
	8 時	9 時	10 時	11 時	12 時	13 時	14 時	15 時	16 時	17 時	18 時	19 時
平日	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2
土曜日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
日祝日	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2



3.2 運行便数

- 運行便数は、新型コロナ禍前は、29 便/日運行されていました。
- 新型コロナの影響を受けている令和 2 年 2 月以降は、運行便数が減少しており、現在は 25 便/日となっています。

(便/日)

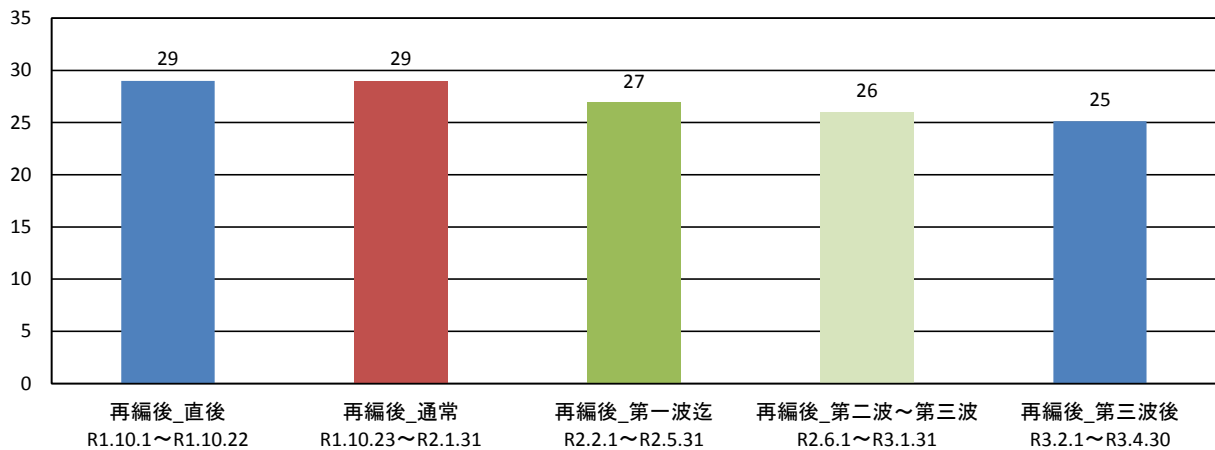


図-5.「おでかけなんじい」の運行便数の推移

3.3 利用者数

- 1 日当たりの平均利用者数は、再編後約 60 人/日で推移していましたが、令和 2 年 2 月からの第一波の期間中は、48 人/日へと減少しました。
- 第二波以降は、徐々にではありますが、増加傾向にあり、現在の利用者数は 52 人/日となっています。

(人/日)

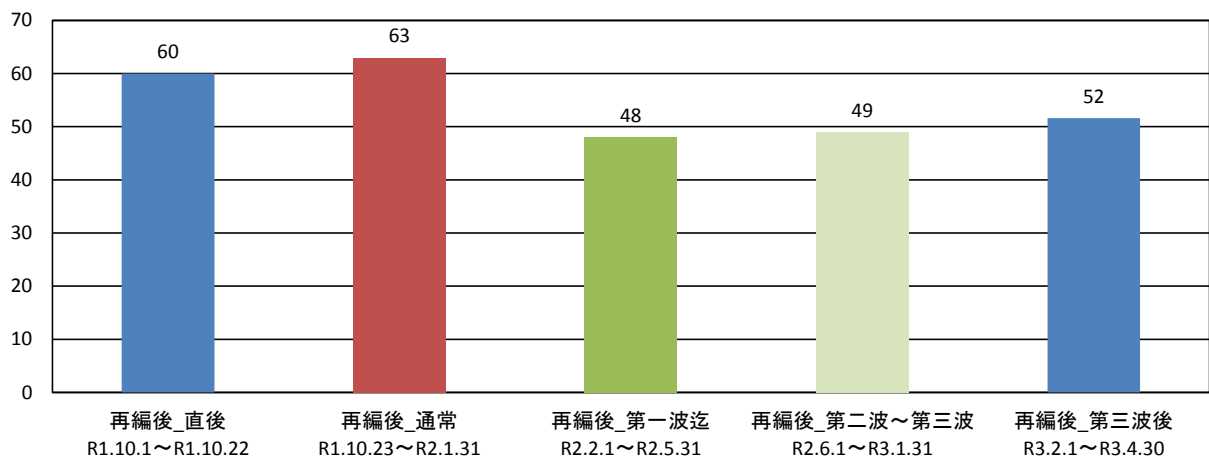


図-6.「おでかけなんじい」の利用者数の推移

3.4 曜日別の利用状況

- 再編後の通常時の利用状況を見てみると、平日は 71.3 人/日、土曜日は 57.5 人/日、日祝日は 36.9 人/日となっていました。
- 令和 2 年 2 月以降の新型コロナウイルスの流行後は利用者が大きく減少しており、特に、土曜日は、57.5 人/日から直近では 38.4 人/日へと 19.1 人/日減少しています。

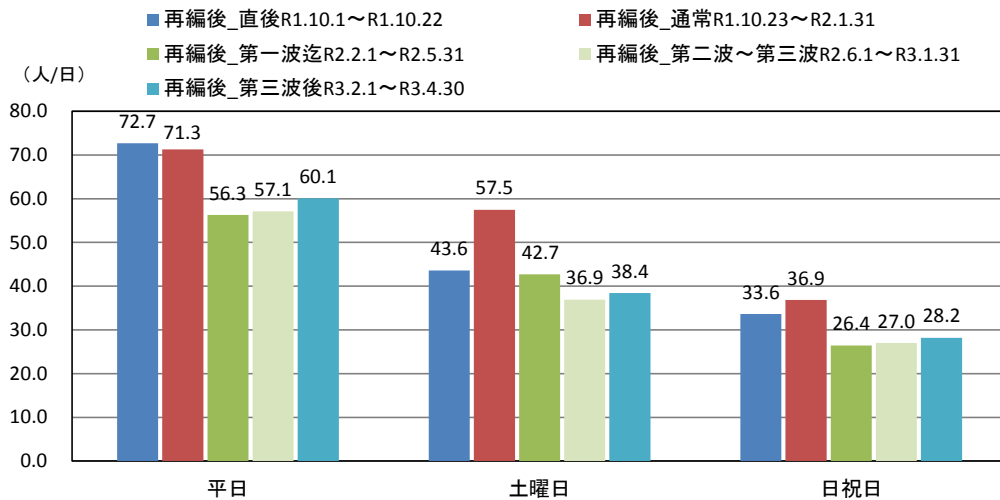


図-7.曜日別の「おでかけなんじい」の利用者数

3.5 曜日別時間帯別の利用状況(新型コロナウイルス流行第一波後)

- 新型コロナウイルス流行後は、平日、土曜日、日祝日のすべての時間帯で平均利用者数が 3.0 人/h 以下と少なくなっています。
- 特に日祝日はすべての時間帯で 2.0 人/h 以下となり、利用者の減少が顕著にみられます。

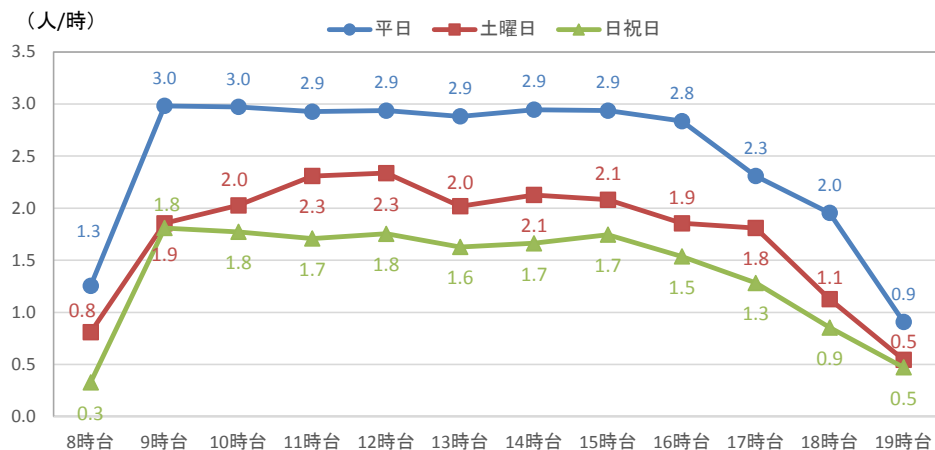


図-8.曜日別時間帯別の利用状況

3.6 性別の構成

- 再編後の男女比の推移をみてみると、男性の割合が19%から27%へと8ポイント増加しており、男性よりも女性の方が、新型コロナウイルスにより外出を控えている方が多いと推測されます。

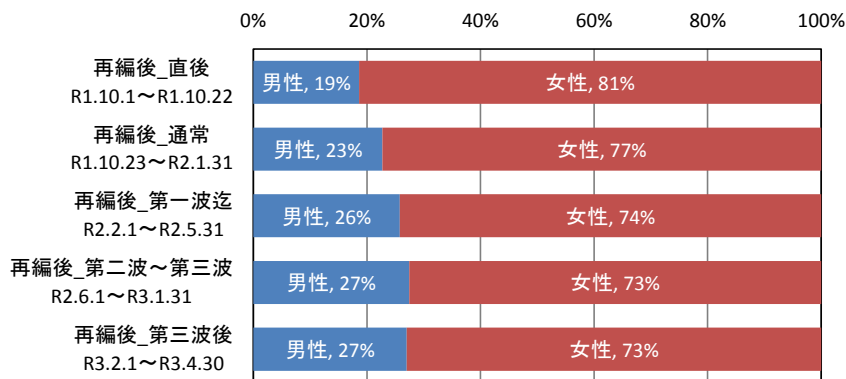


図-9.利用者の性別の推移

3.7 年齢構成

- 再編後(R2.2~R3.4)の利用者の年齢構成は、「80~84歳」が30%、「75~79歳」が29%、「85歳～」が16%と高齢者の利用が多く、75歳以上が全体の75%を占めています。
- 新型コロナウイルスの影響が大きくなった令和2年2月以降も年齢構成に大きく変化はなく、75歳以上の利用者が多数を占めています。

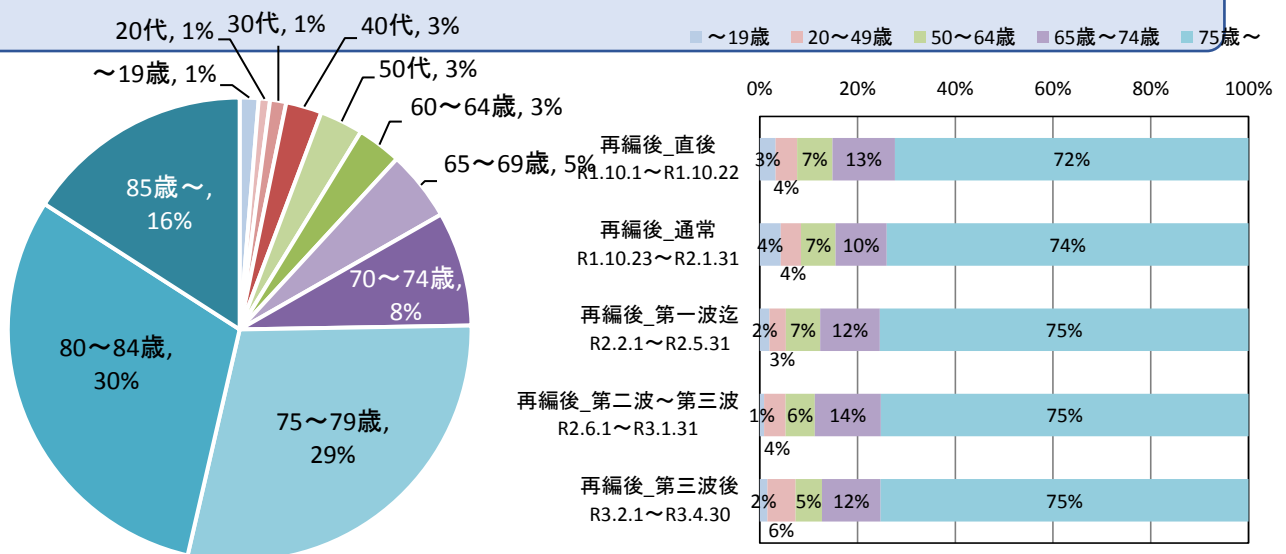


図-10.利用者の年代 (R2.2~R3.4)

図-11.利用者の年代の推移

3.8 市民と観光客

- 再編後の市民と観光客の構成比は、市民が97%、観光客が3%となっています。
- 新型コロナウイルスの影響が出始めた令和2年2月以降の構成比は市民98%、観光客2%とさらに減少しております。
- 1日あたりの観光客の利用者数は、再編後通常の2.0人/日から、現在は0.8人/日へと減少しています。
- 同時期の南城市観光客入域者数も観光客利用者と同様の傾向を示しており、新型コロナウイルス流行前から流行後では1日平均1,700人から500人前後まで減少しています。

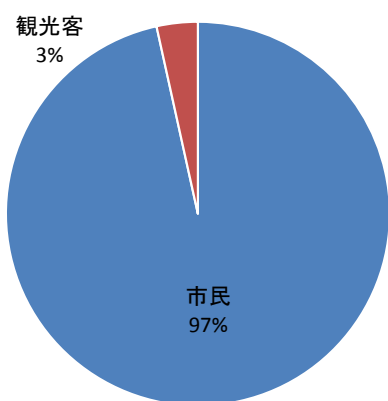


図-12.市民と観光客の構成比(再編後_通常)

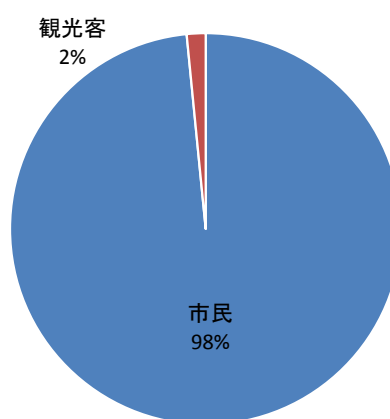


図-15.市民と観光客の構成比(第一波流行後)

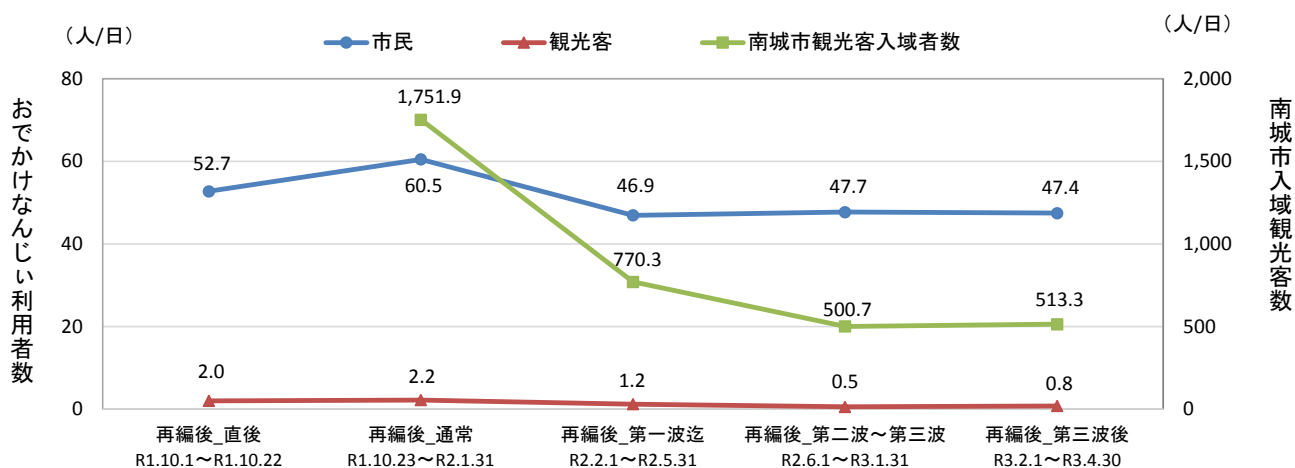


図-13.おでかけなんじいの利用者数と南城市入域観光客数の推移

3.9 令和 2 年度の利用状況のまとめ

- 令和元年度の再編により、「おでかけなんじい」の利用者数は、N バスへ転換し、利用者数が 80 人/日から 60 人/日へと減少しましたが、新型コロナウイルスの影響を受け、さらに利用者が減少、令和 2 年 6 月以降は約 50 人/日の利用となっています。
- N バスは、小中高生の回数券での利用が多く、登下校で多く利用されています。また、一日乗車券の利用者数は、月による変動が大きいものの、増加傾向にあります。
- 日祝日で「おでかけなんじい」の利用者の減少が大きく、利用者数が平日の半数にとどまっています。
- 沖縄県で新型コロナウイルスの感染が確認された 2 月以降、N バス、おでかけなんじいの利用者数はともに減少しており、特に 4 月、5 月は両者あわせて 160~180 人/日と、再編後の通常時の半分以下の利用となっています。
- 6 月以降は N バスの利用は 190~300 人/日、おでかけなんじいの利用者は 50 人/日まで回復しましたが再編直後の頃まで利用者が戻っておらず、全体の利用者は微減で推移しています。

表 5.再編後の利用状況のまとめ

項目	内容
利用者数	<ul style="list-style-type: none"> ●公共交通の利用者数は、再編直後は 360~450 人/日程度の利用があったが、新型コロナウイルスの流行により、令和 2 年 4~5 月は 160~170 人に減少。 ●「おでかけなんじい」の利用者数は再編と新型コロナウイルスの流行により減少、現在の利用者数は約 50 人/日。
曜日別/時間帯別の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ●N バスは、昨年同様回数券利用が多く、平日の利用者 400 人前後に対し、土曜日、日祝日の利用者数は平日の半分以下と少ない。 ●「おでかけなんじい」は、土曜日、日祝日の利用者がさらに減少、利用者数はそれぞれ R2.6 月以降 37 人/日、27 人/日にとどまる。 ●「おでかけなんじい」は、平日、土曜日、日祝日のすべての時間帯の利用者数が 3.0 人/h 以下と少ない。
性別の構成	<ul style="list-style-type: none"> ●「おでかけなんじい」は新型コロナウイルスの流行後、男性の利用割合が 8 ポイント増加したものの、全体に占める割合は 27%に過ぎず、依然として女性の利用が多い。
年齢構成	<ul style="list-style-type: none"> ●「おでかけなんじい」の利用者の年齢構成は昨年同様、75 歳以上が利用者の 75%を占める。
市民と観光客の利用	<ul style="list-style-type: none"> ●「おでかけなんじい」の観光客の利用は、新型コロナウイルスの影響を受け、再編後の 2.2 人/日から 0.8 人/日へとしている。